

全国重症心身障害児（児）を守る会 創立 50 周年記念大会へ参加して

日程 平成 26 年 6 月 8 日～9 日 2 日間

場所 東京都港区高輪 グランドホテル高輪

※第一日目

講演 「ゆっぴいに教えられた事」女優 石井めぐみさん

20 時間以上もかかる難産で帝王切開で出産。出産時に汚水が肺に入り呼吸困難となり仮死状態となり自力で呼吸が出来なくなり母乳も飲む事も出来ない状態でお産した我が子と共に病気と障害に向って戦って亡くなるまでの過程を演技力、表現力で非常に上手く表して語って下さいました。私も大きく感動しました
感謝の集い（私は不参加）

第二日目

受付で一時間以上かかり手間どったのは大会 50 周年記念で天皇皇后両陛下が出席されましたので両陛下を迎える準備作業の訓練の為でした。

式典 通常は各省庁の課長クラスが時の行政の課題を説明するのですが、今回は 50 周年記念行事の為、行政側の説明がありませんでしたので少し寂しい内容でした。

在宅、施設の人の体験発表もありました。

福島幸夫

※今年度から「全国重症心身障害児（者）を守る会」の会員となり、障害者に関わる制度やニュースなどの情報収集を目的に活動するようになりました。

昨年も香川県高松市での全国大会に参加させていただき、そもそもの守る会の生い立ちや国・厚生労働省などとの関わり方について学び、影響力などを知ることができました。

今年は 50 周年記念大会ということもあり、天皇陛下のご臨席を賜り盛大に式典を催すことができましたようす。

（2 日目の天皇陛下のご臨席に参加できなかったのが非常に残念ですが）

守る会の活動が政治や行政を動かし、医療制度や施設整備が進んできたことは間違いなく、天童やまゆり保護者会としても今後も継続的に関係を持つていくことは重要であると考えます。

私は初日の女優石井めぐみさんの特別講演しか聴けませんでした。その中で『勇気をもって社会に出ることが大切』という話が印象的でありました。障害者は家の中に引きこもることが多く、社会と隔離された存在になり外との交流が少ないのです。臆することなく外に出て社会と接し、また健常者も暖かい目と行動で迎え入れることが国民一人一人に必要であると思いました。

高福祉国家を目指している日本ですが、税金や費用負担云々ということばかりではなく、まず心の優しさをもつことが重要なのだと思います。

藤田明宏

※6 月 8、9 日と東京都グランドプリンス新高輪にて開催されました。

大きな会場ですので相当お金もかかるらしいですが、あのような場所で出来たことはすごいなあ～の一言につきます。

6 月 8 日は「石井めぐみさん」の基調講演、子供さんの生涯の体験を通してお話して下さいました。どの親御さんも自分の子供さんと重ねてお話をきかれたことと思います。

どんな事でもいいから情報発信することは忘れないで下さい!!と、言われたことがすごく印象的でした。“こんなことが困ります。助けてください”“これがないのでください!!”とか、何でもいいから、困ったこと、助けてもらったことを「アピール」することが大切とおっしゃっていました。石井めぐみさんが全国講演を行っているようなので、どんどん講演して実情をアピールしていつてもらえることを期待されます。

6月9日は天皇陛下御臨席されました。会場の後ろには多くの報道陣がいました。当日の夕方にはTV放映もありました。桂宮様がお亡くなりになられました。御出席下さったことに「守る会」の力ってすごいなんだなあ〜と思った。体験発表を北海道の保護者の方がされました。

今回は50周年記念大会ということで多くの来賓の方々が見えられました。

都知事の舩添さんもおいでになり祝辞を頂きました。

(北蒲会長のあいさつの中に「最も弱いものを1人ももれなく来る、をモットーにこれからも守る会一丸となって、がんばっていきたいとおっしゃった)

あの場に参加出来たことを大変嬉しく思いました。

いろいろなことの情報を得るということは大変重要なことと思う。守る会を通してそうですが、どんどん外に出て情報を得ようと思います。

川井千代美

※この度は、守る会の創立50周年記念大会に参加させていただきまして、ありがとうございました。大変良い経験をさせていただいたと感謝しております。

簡単ですが、所感を以下にまとめました。

1. 記念大会全般と式典

50年という長い活動期間と天皇陛下のご臨席

運動を続けていく事は大変なことで、半世紀にわたる活動実績は敬服に値する。天皇陛下のご臨席は、活動実績が認められた象徴である。この会の存在を世に知らしめる良い機会にもなったと思われる。警備が厳しくなり待ち時間も多かったが、致し方ない。

来賓と参加者

来賓には、自治体の長を初め著名人が多いのに驚く。また参加者も、元気あふれる方が多いが、年齢層の高さが気になった。

活動内容について

今回は式典としての要素だけだったが、通常どのような活動を行うか聞いてみたいと思った。今年参加した印象では、今後の課題は、会員に若年層をもっと取り込む事と、一般の人をもっと巻き込む事ではないか感じた。

2. 特別講演 「ゆっぴいに教えられたこと」 石井めぐみ

講演のうまさ

1時間半の講演時間が、あっという間に過ぎた。さすが「女優さん」で、人を引きつける講演のうまさは、特筆と感じた。実体験に基づく話は、人の心を動かす。

一般人への働きかけ

一般の方向けに「困っている人がいれば、ちょっと立ち止まってほしい。何か助けが必要なら声をかけやすくなる」と、わかりやすく面白い視点から話していた点が、印象に残った。

「笑ってよゆっぴい」(石井めぐみの本 1996年発行)の入手

講演が終わってから、入手した。親としての素直な気持ちが伝わり、講演内容を思い出す良い機会ともなった。

小松薫

※まずは全国重症心身障害者を守る会 創立50周年記念大会に参加する機会を与えてもらいましてありがとうございました。

第1日目は特別講演 講師 石井めぐみさんの話を聞きました。息子さんとのつらい体験を聞きました。涙が止まりませんでした。

第2日目は式典がありました。天皇皇后両陛下ご臨席されてカメラマンが大勢いました。体験発表では守る会会長さんの話がありました。車イスでありましたがしっかりお話されました。品がありました。

昭和36年に「社会に貢献できない人に国のお金はやれない」と言われたそうです。

後に昭和39年に守る会が設立されたそうです。こういう歴史の中でできた会はずっと引き継がれていきたいものです。少子化の時代ですが若い世代、障害者の家族だけでなく、一般の方々にも広く浸透していかなければならない必要性があると感じました。

曾根依志子

6月16日(日)「静岡支部の総会」つばさ静岡

牧野会長より

(全国大会の感想などのお話をして頂き)

静岡支部としての指針は「入所施設や在宅の格差」を取り除きたいとお話がありました。施設同士の連携、在宅と施設の連携もとっていきたいとの事。

困難な部分は多々あると思いますが、要望に応じていくという形で協力はしていかなければいけないのだろうなと思います。

また、三方原にある施設「おおぞら」の会長さんからも帰り際に「交流をしていきたい」という意向をお話下さいました。

このように声をかけて交流していきたいとおっしゃって下さる事もすごくありがたい話なのですが、基盤は何といても「やまゆり保護者会」をもりあげていく、今後のことをしっかりと会長と共にみんなで考えていく事が一番大事な事なので、外交もそこそこ、しかし「やまゆり保護者会」を充実させていかななくてはいけないなあ～と思いつつながら帰路についてきた次第です。

川井千代美